

クワシロカイガラムシ（第1世代幼虫）の 防除対策について

令和8年4月27日
埼玉県茶業研究所

本年はクワシロカイガラムシ（以下、クワシロ）のふ化幼虫の発生ピークは平年並（5月13日）の見込みです。発生量は比較的少ないものの、観察地点を含めて一部の茶園では雌成虫が比較的多く発生している茶園もあります。

本年のふ化幼虫の発生ピークも一番茶摘採期に重なりと予想されるため、発生が少ない場合は、次世代の発生時期（7月）に防除する方法もあります。下記の情報を参考に、対策を検討してください。なお、現在、クワシロの発生が多い場合や、今後の対策について判断が難しい場合などは遠慮なくご相談ください。

1 有効積算温度による推定

各地点の茶株内温度とアメダス（青梅）のデータ（平年値、温度補正なし、予察日4月21日以降を利用）から推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	ふ化幼虫の推定ピーク	防除適期
狭山市（笹井） 所沢市（東狭山ヶ丘）	5月8日	5月9～12日
入間市（野田）	5月9日	5月10～13日
入間市（上藤沢） 入間市（木蓮寺）	5月11～13日	5月12～17日
入間市（茶研）	5月16日	5月17日
青梅アメダスデータ	5月13日	5月14～17日
青梅アメダスデータ （過去10年平均） （2016～2025年）	5月15日	5月16日～19日

2 防除時期のポイント

防除時期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日程度が目安です。この時期を過ぎるとしだいに防除効果が低下します。近年の防除時期は、一番茶摘採・製茶時期と重なることが多く、防除に労力を割くことが難しいタイミングになります。防除時期はあくまでも目安ですので、枝幹の雌成虫が多い場合は、多少適期から遅くなっても防除を行いましょう。その際は、まだ摘採していない周辺の茶園にドリフトしないよう配慮しましょう。

3 防除対策のポイント

(1) 3月にプルートMCを散布したほ場

通常、防除対策の必要はありません。

(2) プルートMCを散布していないほ場

- ・発生が多い茶園では、摘採後にアプロードエースフロアブルやコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布しましょう。
- ・摘採・製茶作業の関係で、やむなく防除適期から遅れて防除する場合は、カルホス乳剤やマシン油乳剤（ラビサンスプレーなど）などを散布します。
- ・農薬を散布する場合は、使用時期（収穫前日数）に注意して散布しましょう。
- ・散布は茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施しましょう。
- ・一番茶収穫期と重なり防除が実施できない場合や周辺ほ場がまだ摘採されておらず薬剤防除が困難な場合は、摘採後に米ぬかやナタネ粕（約40Kg/10a）を茶株内に処理するか、次世代（7月）の幼虫発生時期の対策を考えましょう。

(3) 更新処理

深刈りや台切り更新を予定している場合、上記防除適期から1週間以上経過したのちに実施するようにして、寄生した枝葉の飛散や機械への付着が原因となって歩行幼虫を他のほ場に運び、クワシロを広げてしまうことがないように注意しましょう。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣

TEL : 04-2936-1351

FAX : 04-2936-2891

E-mail : omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp